



ここ、ここは?!



齊明天皇は、麻氏良山と天照大神との関係を知っていたので、唐と新羅の連合軍との戦いに際し、自分の後ろ盾としたいがために朝倉に宮を置いたとする説(高倉盛雄氏)もあります。またこれに関連して、「朝倉」の名前の由来が「麻氏良」にあるとの説(井上悦文氏)もあります。

『あさくら路 古代史散策マップ』
 (朝倉市まちづくりチャレンジ大学 古代史ゼミ)より

邪馬台国甘木朝倉説



日本書紀によれば、神功皇后三十九年の条には、注釈として「魏志に伝はく明帝の景初三年の六月、倭の女王、大夫難斗米等を遣して、郡に詣りて、天子に詣らむことを求めて朝献す。」「四十年の条には、「魏志に伝はく、正始元年に、建忠校尉梯携等を遣して、詔書印寿を奉りて、倭国に詣らしむ。」「四十三年の条には「魏志に伝はく、正始の四年、倭王、復使大夫伊声者掖耶約等八人を遣して上献する。」と記されています。

これらの記述が、中国の正史といわれる歴史書の「三国志」の「魏書」の「東夷伝」の「倭人条」、つまりは「魏志倭人伝」の記述とほぼ完全に一致していることから、神功皇后こそが卑弥呼ではないかとする見方があります。

そして、甘木朝倉地方には、日本書紀や、江戸時代の歴史学者の貝原益軒の「筑前続風土記」等にも記載されるように神功皇后にまつわる伝承が多数残ることから、この朝倉の地が、邪馬台国の女王卑弥呼がいた所ではないかとする「甘木朝倉説」があります。また一説には、天照大神が卑弥呼であるとの見方(安本美典氏)もあります。



御陵山(朝倉市) MAP D-5

齊明天皇が橘広庭宮に入られて間もなくして崩御。ご遺骸は、中大兄皇子によって7日後に橘広庭宮から御陵山に移され仮に葬られました。すぐ近くには「木の丸殿」跡等があり往時を偲ぶことができます。現在の陵墓は奈良県にありますが、新たな発掘もあり話題はつきません。



菱野の三連水車(朝倉市) MAP D-4

筑後川から取水した堀川用水を高い田畑に引くために約220年前から菱野の三連水車、三島、久重の二連水車が3ヶ所に設置され、合わせて35haの水田を潤しています。実動する日本最古の水車として歴史的・文化的にも有名です。



橘広庭宮の碑(朝倉市) MAP C-4

齊明天皇が中大兄皇子等とともに百済救援の軍を率いて九州に入り、皇居とした場所。宮の一角には、齊明天皇が政務を執った場所といわれる「天子の森」の跡があります。また碑の近くには、長安寺跡や朝闇神社や猿沢の池があり、のどかな田園風景が広がっています。



恵蘇八幡宮(朝倉市) MAP D-5

661年齊明天皇は、百済救援のため朝倉橘広庭宮に皇居を遷された際、中大兄皇子(のちの天智天皇)は、国の発展と戦いの勝利を祈願するため、宇佐八幡宮の祭神・応神天皇を祀られました。673年勅命により齊明・天智両天皇の二柱をも祀り、恵蘇八幡宮となりました。



月見の石・「秋の田」歌碑(朝倉市) MAP D-5

水神社境内にあるこの石は、橘広庭宮に到着後2ヶ月ほどで崩御された亡き母、齊明天皇を偲んで中大兄皇子が腰を掛け、川面に映る月を眺め心を癒したと伝えられています。また、天智天皇はこの地で、小倉百人一首、一番歌「秋の田のかりほの庵のどまをあらみ我が衣手は露にぬれつつ」をお詠みになったと云われています。



猿沢の池と朝闇神社(朝倉市) MAP C-4

齊明天皇の行宮に伴い建立された社を朝闇神社といい、この社から能や人形浄瑠璃などの源流とされる「筑紫舞」の原形ではないかという興味深い絵馬が発見されました。朝闇神社と猿沢の池が往時の名残を今に伝えています。

なるほど、なるほど。

